

前期・現場実習が終わりました。～ご協力ありがとうございました～

前期の現場実習が終わりました。保護者の皆様には送迎や昼食の準備などご協力いただき、ありがとうございました。生徒は、自分の目標に向かって実習に取り組むことができたことで、充実した表情で実習を終えることができました。

実習後、学級や進路ワークで振り返りを行いました。この振り返りで大切にしていることが2つあります。1つ目は、実習を通してできるようになったことや頑張ったことを確認し、できたことを認め、生徒の自信につなげることです。2つ目は、実習を通して、自分が苦手とすることや課題について気づき、実感し、今後の学校生活や次の実習で課題を生かせるようにすることです。学校では、これらを生徒自身が意識できるように働きかけ支援するとともに、保護者の方と共有することで、学校と家庭でどのような支援をしていけるか、一緒に考えていきたいと思えます。



初めて現場実習に臨んだ2年生。実習期間、仕事内容は様々でしたが、仕事を続けることの難しさ、大変さをどの生徒も実感したようです。

「進路を語る会」

～ご参加ありがとうございました～

第1回、第2回の進路を語る会には、小学部から高等部まで、たくさんの保護者の方から参加いただきありがとうございました。

第1回は卒業生の進路先や最近の福祉について、第2回は障害者基礎年金について、をテーマに開催しました。第2回では上越地区手をつなぐ育成会の松原様と山川様をゲストにお招きしお話をさせていただきました。年金受給のために準備しておくこと、主治医をもつことの大切さなど、大変貴重なお話をお聞きすることができました。

2学期も「グループホームについて」や「福祉のいろいろQ&A」など、ゲストをお招きしてお話ししていただく予定です。保護者の皆様からの参加をお待ちしております。



高等部では卒業後の進路先の見通しをもちながら、体験学習や現場実習先を考えていきます。保護者の方も具体的に進路を考える時には、事業所の仕事内容や、そこでの子どもの仕事の様子、職場の環境等、理解していることが大切です。

高等部2・3年生の保護者の方は、是非都合をつけて、実習期間に実習先へ出向いていただきたいと思えます。高等部1年生の保護者の方は、進路を語る会などを利用し、進路についての情報を積極的に集めていくのもよいと思えます。

高等部・進路支援の進め方～進路が決定するまでの流れについて～

進路が決まるまでの流れは、一人一人異なりますが、大まかな流れをお示します。

高等部 1 年	【生徒】 ・施設見学や職業体験学習、校内実習を通して、実習（働く事）に対するイメージをもつ。	【保護者】 ・・・進路先の状況を知る。 ・進路に関する情報収集や見学等への参加。 ・福祉的就労（生活介護・自立訓練・就労継続支援B型・就労継続支援A型）と一般就労について知る。
施設見学		
職場体験学習		
校内実習		

高等部 2 年	【生徒】 ・本人の実態や卒業後の進路を見据えながら、体験学習と現場実習先を決め、実習を行う。 ・目標をもって実習に取り組むとともに、そこでの経験をもとに多くのことにチャレンジする。	【保護者】 ・子どもの力や家庭の諸条件を考え進路先の候補を考える。 ・子どもの将来像（卒業後だけでなく10年先も見据えて）を考える。 ・個別懇談等で担任や進路担当に思いや考えを伝える。
職業体験学習 (春・秋)		
現場実習 (6月・11月)		

さまざまな実習先での実習体験を通して、生徒保護者で比較し、選択、決定していく。

高等部2年の3月の個別懇談で、卒業後の進路先を絞り込む（福祉的就労か一般就労か、福祉的就労であれば、どの福祉事業所を希望するか等）。

高等部 3 年	【福祉的就労】 ・3月の個別懇談をもとに前期実習先を決める。 ・(卒後、希望する事業所の場合) 保護者も実習先に出向き、事業所に卒業後利用したい旨を伝える。 ・卒業後の利用を想定しながら実習に臨む(実習先への通勤方法・実習内容等)	【一般就労】 ・ハローワークと連携しながら、就労を希望する企業に、現場実習期間だけでなく、必要に応じて年間を通して実習を行う。 ・本人、保護者とハローワーク担当者と面談。 ・内定後、就業・生活支援センターさくらに登録、面談(本人、保護者が行う)。 ・企業面接、打合せ ・移行支援会議 本人、保護者、企業、就業・生活支援センター、学校が参加
4月		
5月		
6月	前期 現場実習	
7月		
8月	進路先の決定	
9月		
10月	後期 現場実習	
11月		
12月		
1月	【福祉】 市役所（福祉介護課）でサービス利用申請の手続き ※保護者が市役所に行き手続きを行う（1月～2月）	
2月	【福祉】 移行支援会議（関係機関との情報交換会）の実施 ※本人・保護者・事業所・相談支援事業所・学校が参加	
3月	【福祉】 進路先と利用契約・最終打合せ	

卒業後、1年間は学校も支援会議等に参加し、フォローアップを行う。

高等部では卒業後の進路先の見通しをもちながら、体験学習や現場実習先を考えていきます。保護者の方も具体的に進路を考える時には、保護者の皆様も事業所の仕事内容やそこでの子どもの仕事の様子、や職場の環境等、理解していることが重要になります。高等部2・3年生の保護者の方は、是非都合をつけて実習先に出向いていただきたいと思います。高等部1年生の保護者の方は、進路を語る会などを利用し、進路についての情報を積極的に集めていただくことが大切です。

初めて現場実習に臨んだ2年生。実習期間、仕事内容は様々でしたが、仕事を続けることの難しさ、大変さをどの生徒も実感したようです。実習前は、「不安です。」「心配です。」との言葉が出ていました。しかし、実習後は「次の実習も頑張ります。」「自分にもできる仕事があることが分かりました。」と、実習をやり遂げたからこそ、次につながる言葉を聞くことができました。

卒業生の様子から…

当校では、卒業生のフォローアップのため、1年間はモニタリングなどの会議に進路部や関係職員が出席します。

5月に福祉作業所に就労したAさんの会議に出席しました。Aさんは、就職してからも生活リズムがかわることなく、毎日休まず、元気に出勤しています。そして、初めての工賃（給料）も出ました。使い方を聞いたところ、自分の好きな柄のTシャツを買ったり、髪の毛のカット代に使ったりしたそうです。また、時々、仕事の休憩中にコーヒーなどを自動販売機で購入するそうです。

それを聞いて、私は胸がじーんとなつてしまいました。